

科目 コード	71110	授業 科目	助産学概論 (Introduction to Midwifery)			担当 教員	○峰岸 まや子	
開講年次	別科 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義	
選択必修	必修	時間数	15時間					
授業概要	助産に関するものとして助産の本質・意義、助産並びに助産師の歴史を、また助産の対象者に関するものとして妊産婦や家族の理解、母性・父性を育む支援を、さらに母子保健医療の構造に関するものとしてチーム医療や関係機関との調整・連携について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産の概念・意義について説明できる。 2. 助産業務に関連する倫理、責務について説明できる。 3. 助産の歴史、母子保健の変遷について説明できる。 4. 母子保健医療におけるチーム医療、関係機関との連携について説明できる。 5. 諸外国の助産師教育や研究、国際活動について説明できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態	
第1回	助産の概念 ・助産の意義 ・助産の対象 ・助産、助産師の定義 ・助産の将来					峰岸	講義	
第2・3回	助産の責務と倫理 ・助産師の役割と責務 ・助産師と倫理 ・助産師の職業倫理					〃	〃	
第4回	助産師の国際活動と諸外国の助産 ・国際化時代の母子保健 ・諸外国の助産と助産師活動他					〃	〃	
第5回	母子保健の変遷 ・明治時代の母子保健 ・大正時代の母子保健 ・昭和初期の 母子保健 ・大戦以後のあゆみ ・現代の母子保健					〃	〃	
第6回	助産の歴史と文化 ・わが国における助産の歴史 ・わが国の助産習俗 ・諸外国における助産の歴史 ・諸外国の助産習俗					〃	〃	
第7回	周産期におけるチーム医療および関係機関との連携 ・周産期医療のシステム化と連携の構築 ・集約化が進む周産期医療における助産師への期待 ・周産期医療システム化での助産師の活動					〃	〃	
第8回	助産師と教育・助産研究 ・わが国における助産師・助産師教育の変遷と現状 ・諸外国における助産師・助産師教育の変遷と現状 ・助産実践と研究					〃	〃	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤尚美、林陽子、平山イワ 編集：基礎助産学 第1巻 助産学概論、日本助産師会出版 ・日本助産師会編集：助産師の声明／コア・コンピテンシー、日本助産師会出版 ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座1、9、医学書院 ・福井トシ子 編集：助産師業務要覧Ⅰ、Ⅱ、日本看護協会出版会 ・日本助産師会編集：助産業務ガイドライン2014、日本助産師会出版 ・加藤尚美 監修：助産業務指針 第1版、日本助産師会出版 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働統計協会：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 ・山本あい子 編集：助産師基礎教育テキスト 第1巻、日本看護協会出版会 ・成田伸 編集：助産師基礎教育テキスト 第3巻、日本看護協会出版会 他随時提示 							
成績評価 の方法	筆記試験、課題等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。							
備 考	助産師としての基盤になる科目です。 各自、理想とする助産師像をイメージしながら学習して下さい。							

科目 コード	71120	授業 科目	基礎助産学 (Fundamental Midwifery)			担当 教員	○大城 すぎの 中原 芳子 上原 和代 (兼担) 小濱 守安 (非常勤) 佐久本 薫 (非常勤) 涌谷 桐子 (非常勤)		
開講年次	別科 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
授業概要	助産活動を行う基礎として、妊産婦の生理的变化や正常からの逸脱、乳幼児の成長発達、ハイリスク新生児について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルに特徴的な解剖生理と正常な経過について説明できる。 2. 妊産婦の正常からの逸脱と産科管理について理解できる。 3. 胎児および新生児の解剖生理について説明できる。 4. 乳幼児の正常な発育・発達と、その評価法について説明できる。 5. ハイリスク新生児の管理と疾患について理解できる。 								
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態		
第1回	母性の身体的特徴：生殖生理に関する間脳-下垂体系機能、卵巣機能、妊娠成立の機序、胎児胎盤機能					涌谷	講義		
第2回	妊娠の生理：妊娠中の母体の変化、心理・社会的変化					大城	講義		
第3回	分娩の生理：分娩の定義と種類、分娩の3要素、産婦の心理・社会的変化					中原	講義		
第4回	分娩の生理：分娩経過、分娩の機序、分娩が母体・胎児に及ぼす影響					〃	〃		
第5回	産褥の生理：復古の機序と経過、乳汁分泌機序と経過、心理・社会的変化					大城	講義		
第6回	新生児の身体的・生理的特徴、行動学的特徴					小濱	講義		
第7・8回	新生児にみられる疾患					〃	〃		
第9・10回	乳幼児の正常経過 ・身体的、認知的、情緒的、社会的発達 ・乳幼児期の発育・発達評価の方法					上原	講義		
第11・12回	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠、妊娠期に用いる薬剤 妊娠期に行われる産科手術					佐久本	講義		
第13・14回	分娩期の異常・偶発疾患、分娩期に用いる薬物 産科手術および産科的医療処置					〃	〃		
第15回	産褥期の異常・偶発疾患、産褥期に用いる薬物					〃	〃		

<p>テキスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座 2、6、7、8、医学書院 ・荒木勤：改訂第22版 最新産科学（正常編）、文光堂 ・荒木勤：改訂第22版 最新産科学（異常編）、文光堂 ・日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2014、日本産科婦人科学会 ・NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 編集：母乳育児支援スタンダード第2版、医学書院 ・横尾京子 責任編集：助産師基礎教育テキスト 第6巻、日本看護協会出版
<p>参考文献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・坂元正一、水野正彦、武谷雄二 監修：改訂版 プリンシプル 産科婦人科学1、2、メジカルビュー社 ・医療情報科学研究所 編集：病気がみえる9 婦人科・乳腺外科 第3版、メディックメディア ・医療情報科学研究所 編集：病気がみえる10 産科 第3版、メディックメディア ・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児看護総論、医学書院 ・上田礼子：生涯人間発達学 改訂第2版、三輪書店 <p style="text-align: right;">他随時提示</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。</p>
<p>備考</p>	<p>助産を学ぶ上で必須となる基礎知識です。予習・復習をしっかりと行って下さい。母性看護学で学んだ内容は理解している前提で講義が進みますので、事前に授業内容についての知識を整理して臨んで下さい。</p>

科目 コード	71130	授業 科目	基礎助産学演習 (Laboratory of Fundamental Midwifery)			担当 教員	○大城 すぎの 中原 芳子 涌谷 桐子 (非常勤) マッカンキー・宮城 りょう子 (非常勤) 山内 れい子 (非常勤) 新屋 吾由美 (非常勤)		
開講年次	別科 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	演習		
選択必修	必修	時間数	60時間						
授業概要	胎児心拍モニタリングの判読、妊産婦・胎児の超音波画像判読、乳幼児の成長発達、母乳育児支援について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超音波断層装置を用いた妊娠中の基本的な計測ができる。 2. 胎児心拍モニタリングの判読により、胎児の健康状態の判定ができる。 3. WHO /UNICEF「母乳育児成功のための10か条」に基づいた母乳育児支援ができる。 4. 乳幼児の成長発達及び養育環境を理解し、家庭訪問及び健康診査の実際が説明できる。 								
回数	授業内容及び計画					担当者名	授業形態		
第1・2回	超音波画像診断 ・超音波検査の意義と助産ケア、超音波断層装置の基礎知識、妊娠初期および中期以降の超音波検査の目的と各計測					大城	講義		
第3・4回	・遺染色体と遺伝子、遺伝性疾患、出生前診断、助産師活動と遺伝カウンセリング					〃	演習(グループワーク)		
第5・6回	・演習Ⅰ：妊娠初期および中期の計測(胎児心拍の確認、GS、CRL、胎位胎向、BPD・APTD・TTD・FL、羊水ポケット、胎盤付着部位)					〃	演習		
第7・8回	・演習Ⅱ：超音波検査の見学および実施					〃	演習(学外)		
第9回	・まとめ					〃	演習		
第10回	胎児心拍モニタリング ・基礎編Ⅰ					中原	講義		
第11回	・基礎編Ⅱ					〃	〃		
第12回	・臨床編Ⅰ					〃	〃		
第13回	・臨床編Ⅱ					〃	演習		
第14・15回	・分娩監視装置の装着、CTGの判読					〃	〃		
第16回	・臨床編Ⅲ					〃	〃		
第17回	母乳育児支援の基本 ・共感の言葉の練習 ・早期接触、赤ちゃんがリードするラッチ・オン、母乳を欲しがるとサイン					涌谷	講義・演習		
第18回	・直接授乳観察用紙を用いた観察、授乳支援の実際					〃	演習		
第19・20回	・母乳育児支援マニュアル作成および発表					〃	〃		

第21・22回	母乳育児支援の実際 ・入院中によく起こるトラブルを生じた褥婦への支援 乳頭痛、早期の乳房緊満、母乳不足感と母乳不足、乳腺炎	マカンギー	講義・演習
第23回	・乳房自己管理法 ・母乳育児と社会資源	〃	〃
第24～26回	新生児および褥婦の家庭訪問（ロールプレイ）	山内 中原	講義・演習
第27・28回	乳幼児健康診査の実際 ・乳幼児健康診査の流れ、乳幼児健康診査の留意事項	山内 中原	講義・演習
第29・30回	周産期の補完代替医療 ・アロマセラピー	新屋	演習
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座 2、3、6、8、医学書院 ・金井雄二：周産期超音波のみかた ベーシック&ステップアップ講座、メディカ出版 ・古橋円：胎児心拍数モニタリング判読、日総研 ・日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編 2014、日本産科婦人科学会 ・NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会 編集：母乳育児支援スタンダード 第2版、医学書院 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本母体胎児医学会 編集：CTGモニタリングテキスト、東京医学社 ・石村由利子 編集：根拠と事故防止からみた 母性看護技術、医学書院 ・BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳：UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース、医学書院 ・本郷寛子、新井基子、五十嵐祐子：母乳育児支援コミュニケーション術、南山堂 ・涌谷桐子 編集：ペリネイタルケア 2009年夏季増刊 母乳育児支援ブック、メディカ出版 ・横尾京子 責任編集：助産師基礎教育テキスト 第6巻、日本看護協会出版 ・涌谷桐子：ドクターKirikoのおっぱい育て 母乳で育てたいお母さんのために!、ニライ社 ・水野克己：おかあさんが元気になる乳児健診、メディカ出版 ・水野克己：笑顔で子育てあんしん赤ちゃんナビ、メディカ出版 <p style="text-align: right;">他随時提示</p>		
成績評価の方法	筆記試験、課題等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。		
備考	臨地実習で実践する母子への支援に反映させる為に、自己学習を充実させて下さい。		

科目 コード	71140	授業 科目	助産診断・技術学 (Diagnosis and Practice of Midwifery)			担当 教員	○中原 芳子 峰岸 まや子 大城 すぎの 上原 和代 (兼任) 石原 智美 (非常勤)		
開講年次	別科 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
授業概要	妊娠・分娩・産褥の診断、新生児の診断を行うための基礎理論を学習する。								
到達目標	1. マタニティサイクルの助産診断と援助について説明できる。 2. 新生児の助産診断と援助について説明できる。								
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	授業形態	
第1回	助産診断概論						峰岸	講義	
第2回	妊娠期の助産診断 ・妊娠の診断／妊娠経過の診断 ・胎児の発育・健康状態の診断 ・健康生活の診断 ・心理社会的側面の診断						大城	講義	
第3回	妊婦への援助						〃	〃	
第4回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援 ・身体的・心理的ハイリスク因子のアセスメント ・異常妊娠・ハイリスク妊婦へのケア ・心理的問題を持つ妊婦のケア						〃	〃	
第5回	分娩期の助産診断 ・分娩開始の診断／破水の診断 ・分娩経過の診断 ・胎児の健康状態の診断 ・健康生活の診断 ・心理社会的側面の診断 ・出生直後の新生児のケア						中原	講義	
第6回	産婦への援助 ・援助の基本 ・分娩各期のケア						〃	〃	
第7回	分娩介助法 ・分娩介助の原理と技術 ・胎盤の検査 ・出生直後の新生児の診断						〃	〃	
第8回	ハイリスク・異常分娩のアセスメントと支援 ・身体的・心理的ハイリスク因子のアセスメント ・分娩中・分娩直後の正常逸脱に対する対応 ・援助の基本 ・異常分娩時のケア ・周産期の合併症とケア						〃	〃	

第9回	産褥期の助産診断 ・産褥経過の診断 ・健康生活の診断 ・育児能力の診断 ・母乳育児に関する診断	大城	講義
第10回	褥婦と家族への援助 ・日常生活への適応および退行性変化促進へのケア ・育児行動取得へのケア ・心理社会的側面へのケア	〃	〃
第11回	ハイリスク・異常褥婦のアセスメントと援助 ・身体的・心理的ハイリスクのアセスメント ・不快症状緩和のケア ・産褥期異常と合併症の予防 ・心理的リスクを持つ褥婦 ・特殊な状態にある褥婦のケア	〃	〃
第12・13回	新生児の助産診断とケア ・新生児の診断（観察技術と検査） ・出生後24時間以内の新生児のケア ・24時間以降の早期新生児のケア ・母子親子関係促進のケア	中原	講義
第14回	NICUとハイリスク新生児ケアの基本 ・ハイリスク因子のアセスメント ・低出生体重児のケア ・治療を受ける新生児のケア ・家族へのケア ・新生児の急変時の対応	石原	〃
第15回	乳幼児への援助	上原	講義
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座6～8、医学書院 ・日本助産診断・実践研究会 編著：実践マタニティ診断 第3版、医学書院 ・日本助産診断・実践研究会 編著：マタニティ診断ガイドブック 第4版、医学書院 ・日本産婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2014、日本産婦人科学会 ・石村由利子 編集：根拠と事故防止からみた母性看護技術、医学書院 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・平澤美恵子、村上睦子 監修：写真でわかる助産技術、インターメディカ ・北川眞理子他 編集：今日の助産 改訂第3版、南江堂 ・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児看護総論、医学書院 		
成績評価の方法	筆記試験、課題等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。		
備考	基礎助産学、基礎助産学演習の知識をしっかりと身につけて臨んでください。		

科目 コード	71150	授業 科目	助産診断・技術学演習 (laboratory of Diagnose and Practice of Midwifery)		担当 教員	○中原 芳子 大城 すぎの 渡久山朝裕 (兼任) マッカンキー・宮城 りょう子(非常勤) 佐代子・シャンティ・デヴィ (非常勤) 吉秋 研 (非常勤) 石原 智美 (非常勤) 小濱 守安 (非常勤)		
開講年次	別科 前期	単位数	3単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	演習	
選択必修	必修	時間数	90時間					
授業概要	妊娠・分娩・産褥の診断、新生児の診断の基礎理論に基づいた援助技術を演習する。援助技術には妊婦・産婦・褥婦のヘルスアセスメントや分娩介助技術、新生児蘇生法及び、コミュニケーションスキル等を含む。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルの助産診断と援助法を手順に沿って実施できる。 2. 新生児の助産診断と援助法を手順に沿って実施できる。 3. 正常から逸脱した紙上事例を通して助産過程が展開できる。 4. 新生児蘇生法について説明及び一部実践できる。 5. コミュニケーション能力や対人関係能力に必要な知識・技術が習得できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態	
第1~3回	コミュニケーションの基本 ・ カウンセリングとは？ ・ カウンセラーの役割					渡久山	講義・ 演習	
第4~6回	助産実践とコミュニケーション ・ コミュニケーションの構成要素 ・ 対人コミュニケーション ・ 共感的コミュニケーション ・ 助産実践の場でのコミュニケーションの実際					マッカンキー	〃	
第7~12回	妊娠期の助産診断とケア ・ 助産診断の展開 ・ 診察技術と援助技術 ・ マイナートラブルの対応					大城	演習	
第13回	妊産婦の運動の実際 ・ マタニティ・ヨガ					シャンティ	〃	
第14~26回	分娩期の助産診断とケア ・ 助産診断の展開 ・ 分娩介助 ・ 出生直後の新生児の診断とケア ・ 内診 ・ 分娩第Ⅰ期のケア					中原	演習	
第27・28回	会陰縫合術					吉秋	〃	

第29~34回	産褥期・新生児の助産診断とケア ・助産診断の展開 ・子宮復古と外陰部の観察とケア ・沐浴	大城	演習
第35~39回	ハイリスク妊産褥婦の助産診断とケア ・助産診断の展開	中原	演習
第40・41回	新生児およびハイリスク児の観察とケア ・出生直後の新生児の観察とケア ・ハイリスク児のケア	石原 中原	演習
第42回 第43~45回	新生児蘇生法(NCPR) ・新生児蘇生法の基礎知識 ・新生児蘇生法の実際	小濱 〃	講義 演習
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産講座学3、6～8、医学書院 ・日本助産診断・実践研究会 編著：実践マタニティ診断 第3版、医学書院 ・日本助産診断・実践研究会 編著：マタニティ診断ガイドブック 第4版、医学書院 ・日本産婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修：産婦人科診療ガイドライン産科編2014、日本産婦人科学会 ・田村正徳 監修：新生児蘇生法テキスト、メジカルビュー社 ・石村由利子 編集：根拠と事故防止からみた 母性看護技術、医学書院 ・本郷寛子、新井基子、五十嵐祐子：お母さんも支援者も自信がつく 母乳育児支援コミュニケーション術、南山堂 ・渡部富栄：対人コミュニケーション入門、ライフサポート社 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・平澤美恵子、村上睦子 監修：写真でわかる助産技術、インターメディカ ・北川真理子他 編集：今日の助産 改訂第3版、南江堂 		
成績評価の方法	実技試験、筆記試験、レポート、課題等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。		
備考	実習で活用できるように、予習復習を必ず行い、効果的な自己学習を計画してください。		

科目コード	71160	授業科目	ウイメンズ・ヘルス (Women's Health)			担当教員	○峰岸 まや子 涌谷 桐子 (非常勤) 徳永 季子 (非常勤)	
開講年次	別科 前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・コア科目	授業形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
授業概要	思春期から老年期までを含む女性のライフサイクル各期の健康に関する多様な問題に対して援助できるよう知識と技術を学習する。主な内容は、女性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患とその治療、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、不妊症、STD等である。							
到達目標	女性のライフサイクルにおける主な疾患の診断や治療法ならびに健康問題と援助について説明できる。							
回数	授業内容及び計画					担当者名	授業形態	
第1回	ウイメンズ・ヘルス概論 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・ジェンダー ・女性のライフサイクル ・女性のセクシュアリティ					峰岸 涌谷	講義	
第2・3回	思春期女性の身体的変化の特徴ならびに性と生殖に関する健康問題 ・第二次性徴と健康問題 ・月経異常、性器奇形、摂食障害、精神・心身医学的疾患 思春期女性への援助 ・セックスアイデンティティ、ジェンダーアイデンティティの形成 ・性と生殖に関する健康教育 ・子宮がんの予防と援助 ・性行動に関する意思決定 ・性暴力、DV (ドメスティック・バイオレンス) 被害の予防と支援、被害者の対応					峰岸 涌谷	講義・ 演習	
第4~7回	成熟期女性の身体的変化の特徴ならびに性と生殖に関する健康問題 ・性周期、生殖機能と健康課題 ・生殖器の腫瘍、子宮内膜症、乳房疾患 成熟期女性への援助 ・性と生殖に関する健康教育 ・就労女性の健康支援 ・乳癌、子宮癌検診 ・性暴力、DV被害と予防と支援、被害者の対応					峰岸 涌谷	講義・ 演習	
第8・9回	家族計画と性感染症 ・家族計画に関する基礎的知識 ・家族計画指導の実施に必要な法的知識 ・各種受胎調節法 ・避妊の指導に必要な基礎的知識					峰岸	講義・ 演習	
第10回	・性感染症					峰岸 涌谷	講義・ 演習	

第11~13回	不妊の悩みを持つ女性と家族に対する援助 ・生殖補助医療 ・不妊治療および不妊治療後の心理的問題と援助	徳永	講義
第14・15回	更年期・老年期女性の身体的変化の特徴ならびに性と生殖に関する健康問題 ・卵巣機能低下および加齢と健康課題 ・更年期障害、更年期うつ、委縮性膣炎、排尿障害、骨盤臓器脱、 ・骨粗鬆症、性交障害 更年期・老年期女性への援助 ・健康増進への生活指導や身体的変化に伴う生活指導 ・自己コントロール能力の強化 ・不定愁訴への相談指導 ・閉経への指導 ・ホルモン補充療法の指導 ・閉経後の性生活の指導	峰岸 涌谷	講義・ 演習
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座2～5、医学書院 ・日本家族計画協会 編：新・受胎調節指導用テキスト、日本家族計画協会 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・吉澤豊予子、鈴木幸子 編著：女性看護学、メヂカルフレンド社 <p style="text-align: right;">他随時提示</p>		
成績評価の方法	<p>試験、課題、プレゼンテーション等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。</p>		
備考	<p>提示された課題は事前に自己学習を行い、グループワークに臨んで下さい。</p>		

科目 コード	71170	授業 科目	地域母子保健 (Maternal and Child Health in Community)		担当 教員	○峰岸 まや子 国吉 悦子 (非常勤) 宮里 澄子 (非常勤) 宮里 直美 (非常勤)		
開講年次	別科 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義	
選択必修	必修	時間数	15時間					
授業概要	地域で生活する母子の健康問題、活用できる社会資源、離島を多く抱える本県における母子保健の課題、離島の母子保健の現状を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域母子保健の概念を説明できる。 2. 母子の健康状態を高めるための国及び県の政策が説明できる。 3. 市町村における母子保健活動及び課題が説明できる。 4. 離島における母子保健の現状と課題を理解する。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態	
第1～3回	地域母子保健の基本 ・地域母子保健の意義 ・母子保健の現状と動向 地域母子保健行政の体系 ・わが国の母子保健行政 ・主な母子保健制度と母子保健施策					峰岸 //	講義 //	
第4回	沖縄県における母子保健施策と現状 ・沖縄の母子保健施策					国吉	講義	
第5回	地域母子保健における保健所の役割					非常勤	講義	
第6・7回	地域母子保健活動の展開 ・市町村における母子保健活動 ・地域子育て支援からのアプローチ ・地域組織活動 ・訪問指導の実際					宮里澄子	講義	
第8回	離島地域における母子保健活動					宮里直美	講義	
テキスト	・我部山キヨ子、毛利多恵子 編集：助産学講座9、医学書院 ・厚生労働統計協会：国民衛生の動向、厚生労働統計協会							
参考文献	・福井トシ子 編集：助産師業務要覧Ⅰ、Ⅱ、日本看護協会出版会 ・母子衛生研究会 編集：わが国の母子保健、母子保健事業団 ・母子保健推進研究会 監修：母子保健法の解釈と運用、中央法規出版 他随時提示							
成績評価 の方法	筆記試験 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。							
備 考	沖縄県の母子保健医療に関連した内容について日々の生活の中で情報収集し、講義に臨んで下さい。 地域母子保健演習の基礎となる科目であり、地域母子保健活動において助産師が果たす役割や連携のあり方を学び、各自の持つ助産師像が深められるようにして下さい。							

科目 コード	71180	授業 科目	地域母子保健演習 (Seminar of Maternal and child health in Community)			担当 教員	○峰岸 まや子	
開講年次	別科 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間					
講義概要	都市や離島の母子保健の現状を理解するため事例やフィールドの分析、さらに フォーマル及びインフォーマルな援助機関等の内容を学習する。							
到達目標	1. 都市及び離島の母子保健の現状を分析し問題点が説明できる。 2. フォーマル及びインフォーマルな母子保健支援機関について説明できる。 3. 地域母子保健活動における助産師の役割が説明できる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態	
第1回	地域母子保健活動とは 地域母子保健活動と助産師					峰岸	講義	
第2~11回	都市及び離島の母子保健の現状の理解 ・ 沖縄県における母子保健の実態 地勢と気候、歴史と文化、人口構成、交通条件、産業構造と 経済状況、医療資源、母子保健上の課題等を把握 地域母子保健における助産師の実態 ・ 各市町村や保健所において実態調査等を行い、その結果から 把握 レポート作成およびプレゼンテーション					峰岸	演習・ フィールド ワーク	
第12~15回	地域における助産師の活動の実際 ・ 市町村における助産師の活動を見学しその内容をまとめる ・ 課題：①新生児訪問 ②退院後の母乳育児支援 ③思春期健康教育 ④マタニティクラス ⑤子育て支援 ⑥助産所での活動 等 レポート作成およびプレゼンテーション					峰岸 地域 助産師	演習・ フィールド ワーク	
テキスト	・ 我部山キヨ子、毛利多恵子 編集：助産学講座9、医学書院							
参考文献	・ 厚生労働統計協会：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 ・ 看護関係統計資料、日本看護協会出版会 ・ 母子衛生研究会 編：母子保健の主なる統計、母子保健事業団 ・ 沖縄県福祉保健部健康増進課：沖縄県の母子保健、沖縄県福祉保健部健康増進課 ・ 市町村発行の要覧 ・ 保健所概要 ・ 離島関係資料 他随時提示							
成績評価 の方法	出席状況（ワークの活動）、課題、プレゼンテーション等 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。							
備 考	グループワークが中心になることから、個々人の主体的な学習活動を望みます。 当科目は、離島実習に活用します。							

科目 コード	71190	授業 科目	助産管理学 (Management of Midwifery)			担当 教員	○峰岸 まや子 小橋川 寿賀子(非常勤) 大城 洋子(非常勤) 桑江 喜代子(非常勤)	
開講年次	別科 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
授業概要	助産所・診療所及び産科病棟の管理運営、周産期の医療事故と予防対策、連携と協働の実際について学習。さらに、災害時の助産管理のあり方、関係法規について学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師業務管理と法規について説明できる。 2. 助産の行われる場の管理について説明できる。 3. 医療事故と予防、連携と協働の実際について説明できる。 4. 災害時の助産業務について説明できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業形態	
第1回	助産管理の基本					峰岸	講義	
第2・3回	・助産管理の概念					小橋川	〃	
第4・5回	・助産業務における連携と協働の実際					大城	〃	
第6・7回	・助産外来と院内助産					峰岸	〃	
第8回	・助産業務と関係法規							
第8回	助産業務管理の実際					大城	講義	
第9・10回	・診療所における助産管理					小橋川	〃	
第11・12回	・病院における助産管理					桑江	〃	
第13回	・助産所における助産管理					峰岸	講義	
第13回	医療事故と助産業務							
第14・15回	・周産期における医療事故					〃	講義・演習	
第14・15回	・助産業務における安全対策							
第14・15回	災害と助産管理							
第14・15回	・災害時のシミュレーション							
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・武谷雄二、前原澄子 編集：助産学講座10、医学書院 ・福井トシ子 編集：助産師業務要覧I、II、日本看護協会出版会 ・加藤尚美 監修：助産業務指針 第1版、日本助産師会出版会 ・日本助産師会 災害対策委員会 編集：助産師が行う 災害時支援マニュアル、日本助産師会出版 							
参考文献	・助産所開業マニュアル(2013年度版)、日本助産師会出版						他随時提示	
成績評価の方法	筆記試験 正当な理由として認められない遅刻、欠席は減点とします。							
備考	施設での助産師業務を管理的視点で学び、安全で安心できる助産ケアのあり方を考えて下さい。							

科目 コード	71210	授業 科目	助産実習 (Midwifery Practicum)			担当 教員	○峰岸 まや子 大城 すぎの 中原 芳子	
開講年次	別科 後期	単位数	10単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	実習	
選択必修	必修	時間数	450時間					
授業概要	病院・診療所において妊婦の健康診査及び分娩介助実習、分娩介助をした母子を退院まで受け持ち健康診査や保健指導を中心とした援助を行う。また、両親学級等の企画をし、それに基づいて実践する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦および新生児の健康診査・保健指導ができる。 2. 分娩期の助産過程の展開ができ、正常分娩の介助ができる。 3. 異常分娩および救急時の対処が指導・助言のもとにできる。 							
日 数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
12週間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 継続事例Ⅰの健康診査と保健指導を行う。 2. 継続事例Ⅱの健康診査と保健指導、分娩介助、家庭訪問、産褥1カ月健診を行う。 3. 分娩介助事例の分娩介助、産褥・新生児期の健康診査、保健指導を行う。 4. 児受け（間接介助）、帝王切開術の見学、異常分娩の介補を行う。 5. 妊婦もしくは褥婦への集団指導を行う。 6. ハイリスク新生児の看護を学ぶ。 7. 事例報告会を行う。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体オリエンテーションを受けた後、各施設オリエンテーションを受ける。 2. 継続事例Ⅰ(受持期間：妊娠20週～32週)1例(初産婦)・継続事例Ⅱ(受持期間：妊娠32週～産後1カ月)2例(初産婦・経産婦)の選定を行う。 3. 分娩介助は、継続事例Ⅱを含み計10例以上行う。 4. 児受け（間接介助）は、指導助産師のもと3例以上行う。帝王切開見学は、1例以上行う。 5. 集団指導は、各施設の臨床指導者からの指導を受け1回以上実施する。 6. 2日間のNICUにおいては、事例を受け持ちケアを行う。 7. 各事例、各実習内容については所定の記録用紙に記述し提出する。 8. 事例報告会を開催し、各自1事例を検討し発表する。 						峰岸 大城 中原	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の手引き ・日本助産診断・実践研究会 編著：実践マタニティ診断ガイドブック 第4版、医学書院 							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座1～10、医学書院 ・山本あい子他 編集：助産師基礎教育テキスト1～7、日本看護協会出版会 ・北川眞理子 編：今日の助産 改訂第3版、南江堂 ・日本助産診断・実践研究会 編著：実践マタニティ診断 第3版、医学書院 ・日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会 編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2014、日本産婦人科学会 							
成績評価 の方法	実習目標の到達度、実習態度（積極性、記録物の提出状況、出席状況、社会的責任）、創意工夫や記録内容、臨床指導者からの情報等を総合的に評価します。							
備 考	<p>妊産褥婦・新生児に必要な知識および助産技術を、十分に自己学習し臨んで下さい。 妊産褥婦に必要な保健指導教材を事前に準備して臨んで下さい。 主体的に実習ができるように、「実習の手引き」を熟読して下さい。</p> <p>※麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。</p>							

科目コード	71220	授業科目	ウィメンズ・ヘルス実習 (Women's Health Practicum)			担当教員	○峰岸 まや子 大城 すぎの 中原 芳子	
開講年次	別科 後期	単位数	1単位	科目分類	専門科目・コア科目	授業形態	実習	
選択必修	選択	時間数	45時間					
授業概要	女性のライフサイクル各期の疾患やその治療、不妊治療等の行われている場で実習し、ウィメンズ・ヘルス向上のために助産師として必要な知識・技術・態度を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルに影響を及ぼす女性生殖器疾患や不妊の看護について理解できる。 ウィメンズ・ヘルスの向上のための助産師としての役割を考察できる。 							
日数	授業内容及び計画						担当者名	
6日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 女性生殖器（子宮、卵巣、乳房など）疾患、または不妊症をかかえる対象を通して、女性の健康問題を把握し、看護の実際を学ぶ。 関わった事例を基に学内カンファレンスを行い、女性特有の疾患が女性のライフサイクルや健康に与える影響について考察する。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーションを受けた後、各施設オリエンテーションを受ける。 女性生殖器疾患と不妊症に関する事前学習を行い、実習現場で活用する資料を作成する。 女性生殖器疾患または不妊症を抱える対象のケアを展開する。 各施設において関わった事例について、カンファレンスや報告会を持ち、実習の学びを振り返り討議する。 全体カンファレンスを通して学びを共有し、女性のライフサイクル各期の疾患とウィメンズ・ヘルス向上のための助産師の役割について考察する。 日々の記録は所定の記録用紙を用い、まとめのレポートは規定の書式で記述し、提出する。 						峰岸 大城 中原	
テキスト	・実習の手引き							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座2～5、医学書院 ・坂本正一、水野正彦、武谷雄二 監修：改訂版 プリンシプル 産婦人科学1、メジカルビュー社 ・落合慈之 監修、角田肇 針原康 編集：婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック、学研 							
成績評価の方法	実習目標の到達度、実習態度（積極性、記録物の提出状況、出席状況、社会的責任）、事前学習や記録の内容、臨床指導者からの情報、カンファレンスの参加状況等を総合的に評価します。							
備考	<p>実習内容を充実させるために、十分な事前学習と資料を作成して臨んで下さい。カンファレンスでは、各々の意見を積極的に発言できるようにして下さい。</p> <p>主体的に実習ができるように、「実習の手引き」を熟読して下さい。</p> <p>※麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。</p>							

科目 コード	71230	授業 科目	離島実習 (Maternal Child Health Practicum In Isolated Island)			担当 教員	○峰岸 まや子 大城 すぎの 中原 芳子	
開講年次	別科 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	実習	
選択必修	選 択	時間数	45時間					
授業概要	離島の母子保健医療の現状と課題を把握し、地域の母子保健を推進するための健康教育（母乳育児支援・育児相談を含む）を実施する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 離島における母子保健活動の実際を理解し、母子保健医療の課題を把握する。 2. 離島における妊産婦・母子の生活の場の現状を理解する。 3. 離島における母子保健医療の課題を分析し解決策について考察できる。 							
日 数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
6 日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 離島における母子保健活動の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 離島の母子保健医療について情報収集し、現状と課題を探る。 2) 離島を訪問し、母子保健医療活動を支えるスタッフからの資料や説明により現状の把握を深める。 3) 離島における妊産婦・母子の生活の場の現状を知り、理解を深める。 4) その地域の母子を対象とした健康教育を実施する。 2. 離島の母子保健医療の課題を分析し、解決策について考察する。 <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習についてのオリエンテーションを担当教員より受ける。 2. 離島の母子保健医療の現状について討議し、問題を明確化する。 3. 離島の母子に向けた育児情報通信誌を、現地指導者から指導を受けながら作成し、送付する。 4. 離島を訪問し、母子保健医療の従事者または関係者、妊産婦・母子と関わりながら、現状を理解する。 5. 実習での学びを通して、離島の母子保健医療についての分析や考察を、現地指導者を含めたカンファレンスで共有する。 6. 日々の記録は所定の記録用紙を用い、まとめのレポートは規定の書式で記述し、提出する。 						峰岸 大城 中原	
テキスト	・実習の手引き							
参考文献	・我部山キヨ子、武谷雄二 編集：助産学講座9、医学書院 ・福井トシ子 編集：助産師業務要覧Ⅰ、Ⅱ、日本看護協会出版会							
成績評価 の方法	実習目標の到達度、実習態度（積極性、記録物の提出状況、出席状況、社会的責任）、記録の内容、現地指導者からの情報、カンファレンスの参加状況等を総合的に評価します。							
備 考	<p>参考文献に限らず、母子保健の主なる統計、沖縄の母子保健統計、保健所概要、離島関係資料等から情報収集し、各々が実習課題を持って臨んで下さい。</p> <p>地域母子保健の内容も活用します。</p> <p>実習準備は前期から始まります。</p> <p>主体的に実習ができるように、「実習の手引き」を熟読して下さい。</p> <p>※麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。</p>							